

横暖ルーフ

工法

重ね葺き

既存屋根材

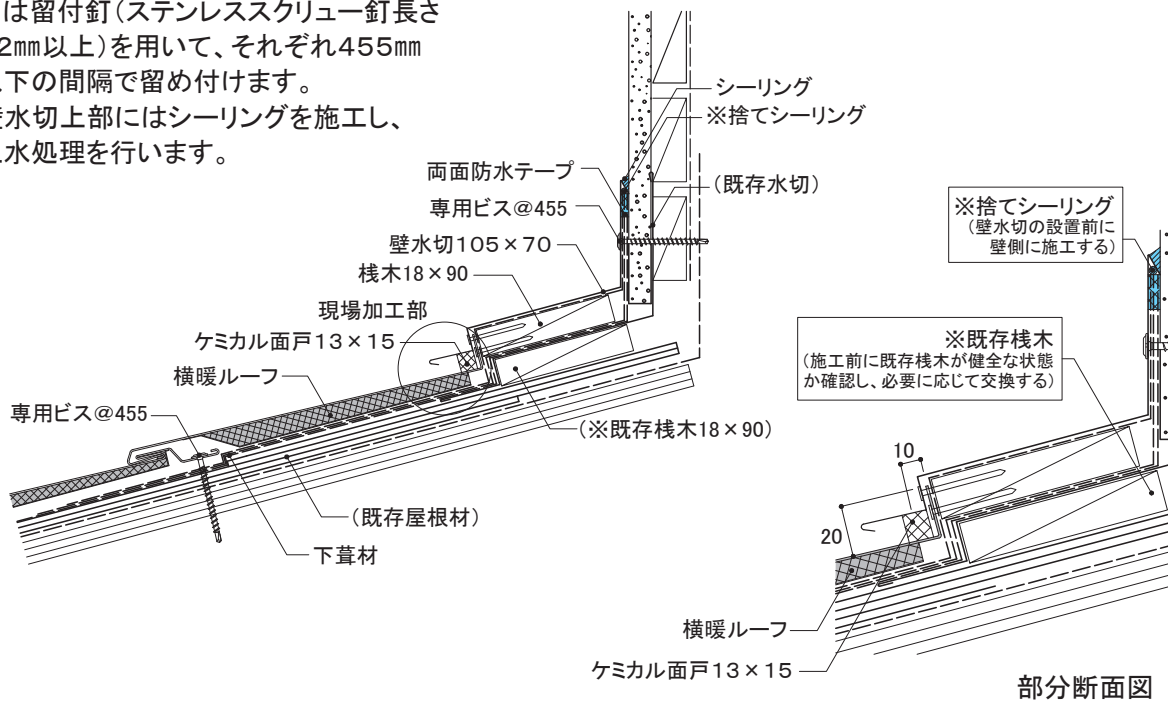
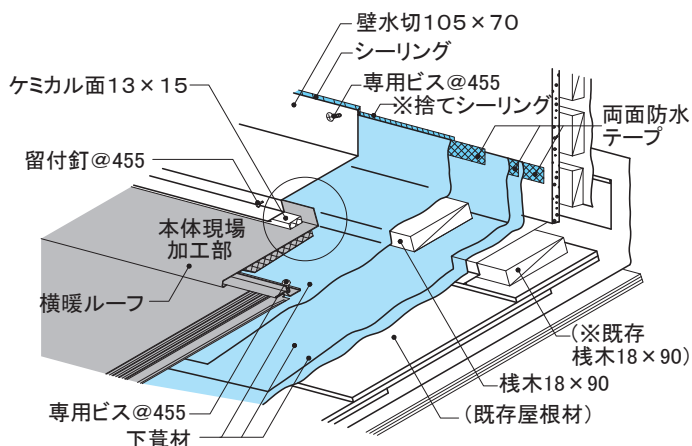
セメント系新生瓦
アスファルトシングル

9) 下屋根部

(既存水切を残す場合)

②棟側 壁水切105×70

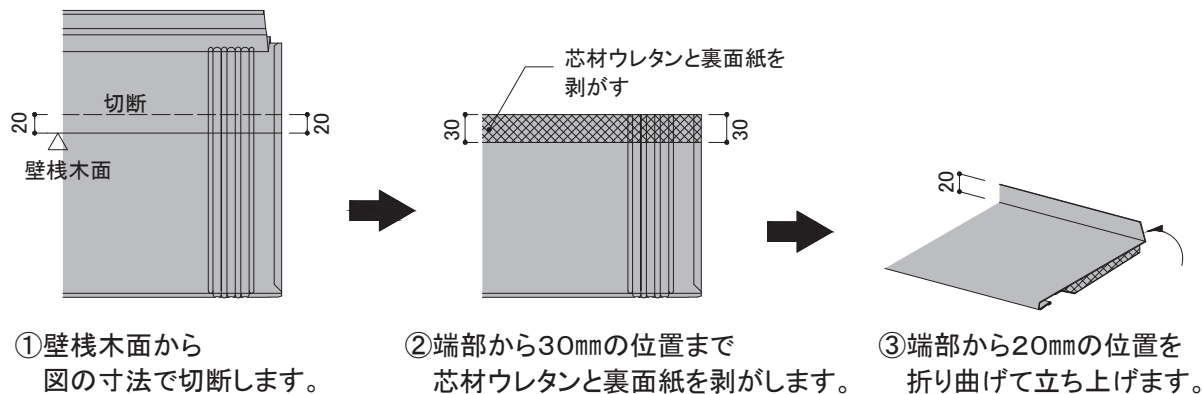
- 既存桟木が健全な状態であるか事前に確認してください。
- 既存屋根材に、下葦材を張ります。
(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。壁水切105×70取り付け前に捨てシーリングを施工します。)
- 桟木18mm×90mmを取り付けます。
- 図のように壁取り合い部を現場加工した横暖ルーフ本体を施工します。
- ケミカル面戸13×15を図のように貼り付け、壁水切105×70をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、桟木には留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。



部分断面図

■ 施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体の壁付部分は、図のように加工します。

① 壁桟木面から
図の寸法で切断します。② 端部から30mmの位置まで
芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。③ 端部から20mmの位置を
折り曲げて立ち上げます。